

SSWerはその時・・・

新型コロナウイルスによる歴史上初の休校要請

新型コロナウイルスの感染拡大と緊急事態宣言を受けて、長きにわたる休校を余儀なくされた、今春。私が勤務する学校では、各家庭との連絡を基本的には電話のやり取りと学校ホームページ上での周知に限定し、直接の家庭訪問は控えることになりました。まさかの事態に当初はかなり戸惑いましたが、示された方針に従ってその中でできることを考え、やるだけだと気持ちを切り替えるしかありません。担任の先生と情報共有しつつ、気になる生徒や家庭と電話連絡を継続し、手紙をポストインするなどしてつながりを保てるようにしました。

また、学校再開時に合わせて教育相談だよりを発行できるよう、教育相談担当の先生とスクールカウンセラーの先生とメールでやりとりしながら、準備を行いました。

(高松市SSWer:小川 真理子さん)

私は、配置型のスクールソーシャルワーカーとして中学校2校に勤務しています。新型コロナウイルスのために休校になった期間も定期的に学校に勤務して活動していました。学校と相談しながら以前より支援していた家庭を訪問してフードバンクから食糧を届け、生活の困りごとについての相談に乗ったり、生徒がいないからこそ相談に来やすいこどもと面接をしたりなど、学校の理解があったおかげで活動ができたと感じています。

また、校内の活動については、教職員に向けて研修をさせていただいたり、相談活動をする部屋の環境整備をして、コロナウイルスの感染予防に努めながら安心して相談にきてもらえる場を作りました。

今まで経験したことがない中で、SSWerとして、こどものために何ができるのか、今も模索中です。

(高松市SSWer:森 優子さん)

定例研修会連携・協働のジレンマ

高松市スクールソーシャルワーカーの白井さんから話題提供をしていただき、関係機関との連携や、子どもにかかわる人との関係づくりについて参加者で話し合いました。

学校に連携する必要性を伝えることで、子どもにみんなで、かわかり、スクールソーシャルワーカーの専門性も伝わるということを共有しました。子どもや家庭との距離感や、子どもや家庭の状況をどのように、関係機関に伝えていくか、また、関係機関との連携する意図をどう理解してもらうか等、日々のスクールソーシャルワーク活動から生じるジレンマ(葛藤)を共有しました。

参加者からは、日々の活動で工夫していることや、先生方と、どのような会話をしているか、関係構築に努めているか等、紹介していました。白井さんからは、「できそう！」の言葉が、連発でした。また、「子どものために、がんばるエネルギーになりました。」と前向きな気持ちになる一時でした。参加者のみなさんが、明日から活用できる内容が盛りだくさんの時間になりました。

オンライン研修は、どうでしたか？スクールソーシャルワーカー協会としても、初めての試みです。はじめは、みなさん緊張した表情で、どうなるのだろうと思っていましたが、研修の中盤にはみなさんが笑顔で話し合う様子が見られました。定例会だからこそ、日々の実践から生じるジレンマを共有でき、会員同士が身近な存在として、相談したり、相談にのったり、そんな時間を研修を通して過ごせられたらいいなと思いました。(普通寺市SSWer:清水美沙さん)

オンライン研修 はじめました。



リフレクティングについて

四国学院大学大学院で、8月に、矢原隆行教授(熊本大学 大学院 人文社会科学部 紛争解決学)を講師に迎え集中講義が行われました。

リフレクティングは、1980年代にノルウェーの精神科医トム・アンデルセン氏によって提唱されました。家族療法の系譜のなかで生まれたミラノ・システムック・モデルを土台として誕生した手法であり、対話を軸にした精神医療「オープンダイアログ」の中核的手法としても活用されています。

リフレクティングの手法については、オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン(<https://www.opendialogue.jp/>)の「対話実践のガイドライン」に概略が紹介されています。リフレクティングの意味として、対話にさまざまな「差異」を導入し、新しいアイデアをもたらすこと、参加メンバーの内的対話を活性化すること、当事者が意思決定をするための「空間」をもたらすことなどが指摘されています。

リフレクティングは、家族療法という固有の文脈の中で生まれましたが、その応用範囲は実に幅広く、世界各地の様々な分野での活用が進んでいます。

興味を持たれた方は、「リフレクティング 会話についての会話という方法」矢原隆行 ナカニシヤ出版をお読みください。リフレクティングが、たんなる新奇な会話の形式やテクニックに留まるものではないことがわかり、社会構成主義やオートポイエーシス、STEM論へと興味も広がっていきます。

また、四国学院大学で研究会・学習会等を開催する予定ですので、さらに興味を持たれた方は、渡邊(emiko78526@gmail.com)までご連絡ください。

(県立高校SSWer渡邊 恵美子さん)



職場紹介



さぬき市 SSWerの紹介



富田
多恵子さん

平木
陽子さん

松木
真由美さん

さぬき市のSSWerは市教育委員会の学校教育課に所属しています。毎朝市教委に行き、タイムカードを押すことから一日が始まります。勤務は週5日8:30～17:00です。

昨年度まで市教委は“津田の松原”のすぐ隣にあったのですが、今春から寒川町の旧小学校跡地に移転しました。田園風景が広がる、のどかな場所です。すぐ向かいが牛舎なので、時々鳴き声が聞こえてきます。窓を開けるとブーンと田舎の香水が香りますが、真新しい机とノートパソコンが支給され快適な空間です。残念ながらそこでは、ほとんど過ごせないのですが、月曜日の午後は3人が市教育委員会に戻り、事務処理や情報交換な

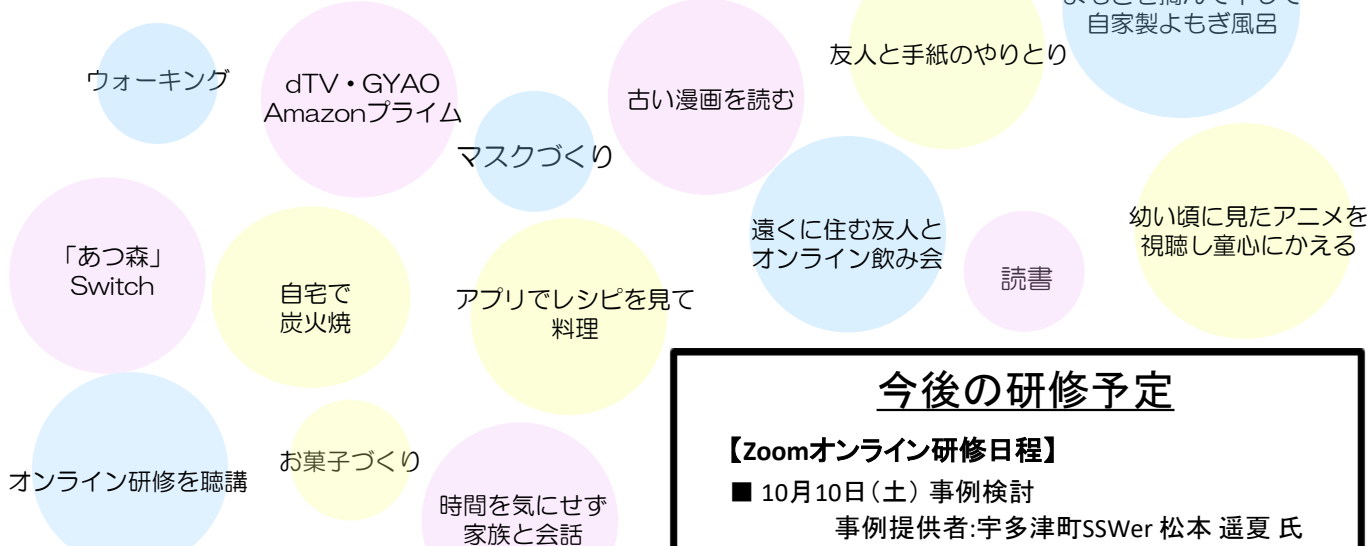
どの機会にしています。

さぬき市では、平成29年度から市内の全小中学校(3中学校・7小学校)にSSWerが配置されるようになりました。一人のSSWerが1つの中学校区を担当しています。小学校にも毎週定期的な足を運ぶことで、きょうだいケースの関わりや小中学校の連携がしやすくなりました。

県教育委員会のSSW月例研修会には、3人が公用車に乗り合わせて行きます。女3人“よもやま話”に花を咲かせ、研修会帰りに美味しいランチを食べに行くのは、月1回の楽しいひとときです。

アンケート結果

自粛期間だからこそ、できたこと



編集広報より

実践活動報告集の原稿を提出していただきありがとうございました。1つのテーマにそって会員のみなさまに実践活動報告集を作成していただきました。2019年度は「不登校」ということで、会員のみなさまが「不登校」について日々考えること、感じることなど、実践活動報告集を通じて共有できれば嬉しく思います。

また、アンケートの提出もありがとうございました。今後のニュースレターでは、会員の言葉をニュースレターにたくさん取り入れるよう考えています。お忙しい中、原稿を書いていただいた会員さま、ありがとうございます。

コロナウイルス感染拡大により協会活動も、オンライン研修という新しい試みで、協会活動も再稼働します。みなさまぜひご参加ください。また、ニュースレターの発行が今年度は、10月と3月の2回となります。誠に申し訳ありませんが、ご理解とご協力のほどお願いいたします。

今後の研修予定

【Zoomオンライン研修日程】

- 10月10日(土) 事例検討
事例提供者: 宇多津町SSWer 松本 遥夏 氏
- 12月 6日(日) 講義「家族へのアプローチ」(仮)
四国学院大学社会福祉学部
北川 裕美子 氏
- 1月 日程及び研修内容検討中
- 2月12日(金) 研修内容検討中

編集・発行

香川スクールソーシャルワーカー協会 編集広報委員

清水 川添 高田 波多江 福島

事務局: 四国学院大学西谷研究室内

香川県善通寺市文京町3-2-1

✉ kagawa.k.ssw@gmail.com